

自然に親しむ

# 焚き火体験

炎の温もり、心に響く夜

最高の焚き火体験へあなたをいざなう



## プログラムの概要

焚き火体験を通して、火の扱い方と安全管理について学ぶことができます。また、火を囲みながらゆったりとした時間を過ごすことで、リラックスした時間を楽しむとともにコミュニケーションとチームワークの向上を図ります。自然との調和や心の安らぎを求める人々にとって貴重な経験となることが期待されます。

独立行政法人国立青少年教育振興機構  
国立妙高青少年自然の家

## 1 活動のねらい

- 自然の中でのリラックスした時間を楽しむ。
- 火の扱い方と安全管理について学ぶ。
- コミュニケーションとチームワークの向上。

## 2 活動のフィールド

野外炊事場、各種広場

雨天時利用場所：クラフトルーム前、プレイホール軒下等

**※職員が場所を指定する。**

## 3 準備品

- 団体・個人で用意するもの：長袖・長ズボン（火の粉からの保護）、手袋、耐火性のあるシューズ  
焚き付けを行う道具（マッチ、牛乳パック等）  
飲み物、キャンプチェアや敷物（座るためのもの）  
焚火で調理したい材料 **（食堂注文 ※食材持込不可）**
- 自然の家で用意するもの：焚き火台、焚火テーブル、バケツ、火ばさみ（無料貸し出し）  
薪（※有料、1束550円 持込可）  
野外炊事用具



## 4 活動の手順

- ①事前打ち合わせ（当日受付で要確認）  
プログラムの概要とスケジュールの説明  
安全に関する注意事項と緊急時の対応方法の説明
- ②焚き火の準備  
風向き、薪の組み方、火をつける手順を確認する。
- ③焚き火の実践  
火起こし、火を育てる。  
焚き火を使った簡単なおやつ作り（焼きマシュマロやカートンドックなどの簡単な調理）
- ④自由時間  
参加者同士の談話やアクティビティ（ギター演奏、物語の朗読、星座観察など）
- ⑤片付けと消火  
焚き火の安全な消火を行う  
使用した場所の片付け（灰捨て場に、灰を捨てる。ゴミの分別）

## 5 安全管理

- 焚き火は施設職員から指定された安全な場所で行う。
- 指導者は炎を見張っておく。絶対に目を離さない。
- 雨天時、建物の近くで行う場合は、建物の中に煙が入り込まないように周辺の窓を必ず閉める。  
（火災報知器が鳴る恐れがあるため）
- バケツに水を入れて消火具を用意しておく。
- 火元から適切な距離を保つ。燃えやすいものを遠ざけ、周囲に気を配りながら火を維持する。
- 必ず消火を確認してから、次の活動へ移る。

発行日 令和6年9月

発行 独立行政法人 国立青少年教育振興機構 国立妙高青少年自然の家

執筆 東條 秀大（事業推進専門職）